

小 泉 八 雲 年 表

(N-01)

(Chronological table of Lafcadio Hearn)

(つねたり 富山大学ヘルン文庫年表)

西暦年号	日本年号	八雲の年 齢 (満)	事 項
1850	嘉永 3		6月27日ギリシャのレブカデア(Leucadia)に生れた。当時父32才、母27才。父はその後西インドへ赴任
1851	" 4	1	7月母とともにアイルランドへ帰る
1853	" 6	3	父は病気のため西インドから帰る
1854	安政 1	4	父クリミヤに向う。弟ジェームズ(James) 生まれる
			母はギリシャへ帰る
1856	" 3	6	7月父クリミヤから帰る 父母離婚 大伯母ブリネン(Brenane) 夫人に養われる
1857	" 4	7	父は再婚して8月インドへ赴任
1862	文久 2	12	この頃ハーンはフランスのイブトー(Yvetot)(?) 学校に在学
1863	" 3	13	ブリネン夫人イギリスへ移住 9月イギリスのアショー(Ushaw) 学校に入学
1866	慶応 2	16	学校で遊戯中事故のため左眼失明 11月父は帰国の途中スエズで死亡
1867	" 3	17	大伯母ブリネン夫人破産のため10月アショー学校退学
1868	明治 1	18	ロンドンで放浪生活
1869	" 2	19	独立を求めてアメリカへ渡り、ニューヨーク着
1874	" 7	24	シンシナティ・エンクワイラー(Cincinnati Enquirer) 新聞の記者となる。6月21日日曜新聞イー・ジグランプス(Ye Giglampz) を発行して9号までつづける
1875	" 8	25	マッティー・フォリー(Mattie Foley)という混血女性との短い結婚生活
1876	" 9	26	シンシナティ・コマーシャル(Cincinnati Commercial) 新聞へ移る
1877	" 10	27	10月シンシナティを去って11月12日ニュー・オーリンズ(New Orleans) に到着
1878	" 11	28	6月15日ニュー・オーリンズ・シティ・アイテム(New Orleans City Item) となり、後副主筆となる
1879	" 12	29	3月小料理店開業 すぐ廃業
1881	" 14	31	12月4日タイムズ・デモクラット(Times Democrat) 社に変わり、その文学部長となる
1882	" 15	32	1月翻訳「クレオパトラの一夜、その他」(One of Cleopatra's nights and other fantastic romances) 出版 12月12日ハーンの母ローザはギリシャで59才で死んだ
1884	" 17	34	「異文学異聞」(Stray leaves from strange literature) 出版
1885	" 18	35	「ゴンボー・ゼベス」(Gombo Zhebes) 「クレオール料理法(La cuisine Creole) 「ニュー・オーリンズ案内記」(The historical sketch-book and guide to New Orleans) 出版
1887	" 20	37	「支那怪談」(Some Chinese ghosts) 出版 6月ニュー・オーリンズを去り、10月西インドのマルチニーク(Martinique)島に行く
1889	" 22	39	5月ニューヨークに帰る 「チタ」(Chita) 出版
1890	" 23	40	「ユーマ」(Youma) 「フランス領西インドの二年間」(Two years in the French West Indies) 翻訳 「シルベストル・ボナールの罪」(The crime of

西暦年号	日本年号	八雲の年令(満)	事 項
			Sylvestre Bonnard)出版 3月5日ニューヨーク主発 3月17日バンクーバー(Vancouver) 出発 4月4日横浜着 8月30日松江中学校に着任 12月23日小泉セツ子と結婚(田部隆次「小泉八雲」昭和26年改訂再版による)
1891	明治24	41	11月5日松江出発 熊本の第五高等学校へ転任
1893	" 26	43	長男一雄生まれる
1894	" 27	44	「知られぬ日本の面影」(Glimpses of unfamiliar Japan)出版 11月熊本を辞し、神戸の「ジャパン・クロニクル」(The Japan Chronicle) 記者となる
1895	" 28	45	「東の国から」(Out of the East) 出版 日本に帰化して小泉八雲と名乗る
1896	" 29	46	「心」(Kokoro)出版 8月20日神戸を立って上京、東京帝大文学部講師となる
1897	" 30	47	「仏の畑の落穂」(Gleanings from Buddha-fields) 出版 二男巖生まれる
1898	" 31	48	「異国情趣と回顧」(Exotics and retrospectives) 出版
1899	" 32	49	「霊の日本」(In ghostly Japan)出版 三男清生まれる
1900	" 33	50	「影」(Shadowings)出版
1901	" 34	51	「日本雑録」(A Japanese miscellany) 出版
1902	" 35	52	「日本おとぎ話」(Japanese fairy tales) 「骨董」(Kotto) 出版
1903	" 36	53	3月帝大講師やめる 長女すず子生まれる
1904	" 37	54	4月から早稲田大学文学部講師 9月26日心臓病で死去 「怪談」(Kwaidan) 「神国日本」(Japan : an attempt at interpretation)出版
1904	" 38	死後 1	「天の川縁起そのほか」(The romance of the Milky Way)出版
1910	" 43	" 6	翻訳「サン・アントワヌの誘惑」(The temptation of St. Antoine) (フローベル原作) 出版
1924	大正13	" 20	6月10日富山高等学校ヘルン文庫が設けられた
1927	昭和 2	" 23	「Catalogue of the Lafcadio Hearn Library in the Toyama High School」を刊行
1929	昭和 4	" 25	死後満25年 9月26日松江で記念祭 富山高等学校高田教授出席 このころ焼津に「小泉八雲先生風詠之地」の記念碑ができた
1932	" 7	" 28	2月18日小泉節子未亡人死去
1933	" 8	" 29	9月3日 日希協会と松江の八雲買いとから贈った八雲の記念碑面の除幕式がレブカデア島で行なわれた
1934	" 9	" 30	八雲死後満30年
1935	" 10	" 31	6月6日松江市の小泉八雲記念館落成 5月10日富山高等学校のヘルン文庫書庫落成式 7月1日東京上野帝国図書館前に八雲記念碑除幕式 9月26日ギリシャの日希協会から東大へ送ってきた八雲の浮き彫り像の伝達式
1937	" 12	" 33	5月31日パーキンズ(Perkins)氏富山高等学校を

西暦年号	日本年号	八雲の年齢(満)	事項
1950	" 25	" 50	訪問して講演を行った 八雲死後満50年 9月26日松江市およびその他で50年祭が行われた。富大図書館塩谷事務長松江の記念祭に出席 富大では10月26日から3日間ヘルン文庫を公開 同27日西崎一郎氏の記念講演
1958	" 33	" 54	9月10日から同12日まで八雲研究家ドロシー・B・マクレランド(Dorothea B. McClelland)夫人ヘルン文庫で研究を行った
1959	" 34	" 55	富山大学ヘルン文庫所蔵ヘルン関係文献解説付目録を刊行
1963	" 37	" 59	蓮町の文理学部図書分室にあった「ヘルン文庫」を五福地区の附属図書館四階へ移転
1973	" 48	" 69	附属図書館新築にともない、「ヘルン文庫」を現図書館の二階に移転
1985	" 60	" 81	日希協会から東大へ贈られた八雲のレリーフ像の複製が東大のご好意により「ヘルン文庫」に収められた
1987	" 62	" 83	2月24日小泉時ご夫妻が「ヘルン文庫」を訪問 9月8日島根大学がヘルン文庫蔵書をマイクルフィルム化開始 平成2年まで
1997	平成 8	" 93	「ヘルン文庫」を増築五階へ移転。ヘルン閲覧室、展示コーナーも設ける。
1998	平成 9	" 94	「神国日本」原稿をデジタル化